



テニスプロデューサー資格を取ってヨカッター!!

慌ただしい年の瀬を迎え、何かと忙しなさを感じてしまうこの頃です。クリスマスケーキを予約して、クリスマスデコレーションを飾りながら、正月のしめ飾り、鏡餅も同時にイメージしてしまう日本人である自分のアイデンティティーってどうなんだろう?なんて考えながらクリスマスプレゼントや新年行事を楽しみにしている自分がいるのですね。

12月のある日、事業協会から電話をいただきました。「警察から電話がありました!今すぐ、羽田空港警察署に電話をして下さい。すぐにです。電話番号は03-0000-××××です。電話だけではだめです。管理番号を言いますのでメモしてください。NO.▲▲□○×。お落とし物があるでしょう!また定期を落としましたね!まったく!」

先月末、福岡出張の際にどこかで定期を落としていたのです。乗車した鉄道各社の遺失物保管センターや航空会社などに電話をかけたり、メールで問い合わせをしていたのですが、一週間過ぎてもうあきらめていたのですが出

てきたのです!!!

なぜ私の定期の忘れ物の件で事業協会に電話があったかという種明かしです。それは定期入れの表に公益社団法人日本テニス事業協会発行テニスプロデューサーの資格認定カードを差し込んでいたからなのです!その裏には事業協会の電話番号が記載されているのです。警察署の担当者がそれを確認して電話してくれたのでした。なんと優しい日本の警察!心より感謝申し上げます。

そしてこのテニスプロデューサーの資格認定カードの靈験あらたかなること!実は5年前も定期入れを落とし、事業協会にお電話をいただいていたのでした!博多駅近くの企業の方でした。東京土産を持ってお礼をしました。

テニスプロデューサーの資格を取って本当に良かった!

何かと慌ただしいこの季節、くれぐれも個人情報記載文書や貴重品等大切なものを落とされたりお忘れにならないように!

～気をつけましょうこの季節～

気温が下がり、空気が乾燥する冬は、感染症の季節です。

定番のインフルエンザに加え、新型コロナウイルスも終息したわけではありません。

たくさんの人が集まるテニス施設は感染拡大のリスクを抱えていることを認識し、感染症予防につとめましょう。また下肢の怪我也も増える時期です。体操の工夫などの対応をしましょう。

～感染症対応～

1. 手洗い・うがい・検温の徹底

こまめな手洗い、うがいを推奨しましょう。

特にスタッフの実施を徹底しましょう。スタッフルームなど、共用の狭い空間では感染リスクが高まります。レッスン前後、食事前後の実施を徹底しましょう。

また出勤前の検温を徹底し、発熱の症状がある場合は無理に出勤させないようにしましょう。



2. 消毒液の設置

新型コロナウイルス5類移行に伴い、入場制限、マスク着用等の感染症対策を解除した施設も多いと思いますが、新型コロナウイルスが無くなったわけではありません。

また冬季にどのような変容を見せるかも未知数です。消毒液等の設置は継続されることをお勧めします。



3. ノロウイルスに注意

インフルエンザ、新型コロナウイルスの影響が大きいく、影に隠れている感もありますが、冬はノロウイルスの感染も増えます。

ノロウイルスは突然の嘔吐を伴う場合が少なくありません。

嘔吐物等は感染源になりますので、適切な処置をしましょう。



4. エチケットセットの設置

ノロウイルスや突然の体調不良への対応が出来るよう、各コート周辺にエチケットセットの設置をお勧めします。

例：プラスチックケース（設置用）、亜塩素酸ナトリウムを薄めた液を入れたボトル、マスク、ビニール手袋、キッチンペーパー、雑巾、タオル、嘔吐用エチケット袋（厚手の紙袋にビニール袋をかぶせたもの）など



対応法

- 嘔吐物を処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、ビニールを着用します。
- 布やペーパータオルなどで、外側から内側に向けて、静かに拭き取ります。
- 使用した布やペーパータオルなどは、すぐにビニール袋に入れ密閉して処分します。
- 嘔吐物が付着していた床とその周囲は、0.10%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパータオルなどで覆うか、浸すようにして拭いてください。（アルコール消毒液では効果はありません）



～怪我対応～

利用者の高齢化が進んでおり、以前に比べ怪我が増えています。

特に下肢（脚部）の怪我が非常に多くなっています。気温の下がる季節はそのリスクはさらに高まります。怪我=退会ですので、出来る限りの対応をしましょう。

1. 「本気」の体操を

レッスン開始時の体操は毎回のことなので「動作」だけになりがちですが、正しい動き、どの部位に効いているのかなどを意識しながら実施しないと効果がありません。

まずはコーチが正しい本気の体操をしましょう。コートに入っているコーチ全員が実施することで、お客様に正しく効果的な体操を促しましょう。

2. レッスン中もアップ、ストレッチを

待ち時間のあるメニューでは、休んでいる間もステップを踏むなど、筋肉が冷えないように指導しましょう。次の順番でドリルに入る少し前にはコーチから「～さん、次入ります。脚のストレッチをしておいてください」などの声がけをしましょう。

急な動きだしでの怪我を予防しましょう。



3. 前後の動きに注意

前後のフットワークでは、肉離れなど怪我が非常に多く発生します。特に短いボールの処理など、前への動きではアキレス腱断裂などの怪我の可能性もあります。コーチは、お客様の年齢、体力に合った負荷を心がけましょう。

